



循環器内科医



上野勝己氏

私たちの体の血液循環は、体循環と肺循環という二つの循環回路から成り立っています。体と心臓との間での血液のやり取りをしているのが体循環で、心臓と肺との間が肺循環です。この二つの回路を使って、体から戻ってきた血液を肺に送って酸素を取り入れ、また体に送り出しています。

肺動脈性肺高血圧症

気によって、これらの病態が引き起こされます。このうち肺動脈が原因と考えられる肺高血圧は、肺動脈性肺高血圧症(PAH)といい、肺動脈の血栓が原因と考えられるものを慢性血栓塞栓性肺高血圧症といいます。

この肺動脈性肺高血圧症は、30歳前後の女性に多く小児期にも発症します。統計によると、100万人に2〜15人の発症率と報告されています。まれな疾患で難病に指定されています。

初期に息切れ、呼吸困難

ので、欧米では単剤で使うことが多いようです。それでも5年生存率は、60〜70%と劇的に改善しました。

さらに日本では、各系統の飲み薬や点滴薬を組み合わせて使用することで、5年生存率は85%に改善しました。しかし病状が進んでしまうと、薬の効きが悪くなるので、早期診断早期治療が大切です。

30歳前後の女性や小児発症

(松波総合病院心臓疾患センター長、羽島郡笠松町田代)